

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版
2021年度 授業実践事例

保健体育科 中学校第1学年

サッカー—フットサルで学ぶボール操作と戦術理解について—

授業者 重元 賢史

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 保健体育科 学習指導案

指導者 重元 賢史

- 日時** 令和3年11月27日(土) 第3限 11:40~12:30
- 場所** グラウンド
- 学年・組** 中学校1年A組40人(男子20人 女子20人)
- 単元** 球技: ゴール型(サッカー)
- 目標**
1. ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる(知識及び技能)
 2. 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる(思考力, 判断力, 表現力等)
 3. 戦術などについての話し合いに参加することや仲間の学習を援助しようとしている(学びに向かう力, 人間性等)

指導計画(全12時間)

- 第一次 オリエンテーション 1時間
- 第二次 個人技能の習得を図る 4時間
- 第三次 個人的技能の向上・集団的技能の習得を図る 5時間 (本時 4/5)
- 第四次 まとめのリーグ戦 2時間

授業について

サッカーは、手以外の足、頭などでボールを扱い、パスやドリブルを使ってボールを運び、ゴールにシュートして得点を競う球技である。また、パスやドリブルでボールを進めてシュートをねらったり、パスカットや自由にドリブルをさせないプレッシャーなどで相手の攻撃を防いだりして、作戦や戦術を考えるなど、いろいろなチームと勝敗を争うところに楽しさがある。

中学校1年生の生徒実態として、足を使ってボールを操作することの難しさや、ゲームにおいてなかなかパスがつかない、すぐにカットされてシュートを狙うまでいけないという課題がある。

そこで本単元では、「ボール操作」に焦点を当てた。フットサル用ボールを使うことで、操作性を高められると考え、人数を制限することでボールに触れる機会を増やした。また、作戦・戦術を理解しやすいようにサッカーコート4分の1の大きさで行った。

本時では、用具の違いによるボール操作を比較することで、生徒の意識や技能にどのような差が見られるか考えたい。また、気づきや感じたことを仲間と共有するなど、他者との交流もねらいとしている。

題目 フットサルで学ぶボール操作と戦術理解について

本時の目標

1. ボール操作と空間に仲間と連携して走り込み、ゴール前での攻防を展開できる。
(運動の技能)
2. ボールの違いに応じてチームに合った作戦を考え、攻防などの自己やチームの課題を発見し、動き方を考える。(運動における思考力・判断力・表現力等/行動観察・作戦ボード)

本時の評価規準（観点／方法）

1. ボール操作と空間に仲間と連携して走り込み，ゴール前での攻防を展開できる。
（運動の技能/行動観察）
2. ボールの違いに応じてゲームに合った戦術を考え，攻防などの自己やチームの課題を発見し，動き方を考える。（運動における思考力・判断力・表現力等/行動観察・作戦ボード）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<p><導入> 出欠点呼 本時の説明 準備運動</p>	<p>○集合 ○本時の学習内容を把握し，課題を確認する。 ○準備運動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察，見学生徒への指導 ・課題の確認ができているか。
<p><展開> グループごとに分かれての活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">比較する</div> <p>気づきを発表する</p> <p>ボール比較ゲーム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">試行錯誤する</div>	<p>○サッカーボールとフットサルボールの違いを理解する。 ○ボール操作の比較 調査項目/活動 ①パス/対人パス ②ドリブル/マークドリブル ③シュート/ゴールにシュートする ④プレーしているときの気持ち</p> <p>○4つの比較項目から，各チームで気づきを発表する。</p> <p>○試合時間を前半と後半に分け，それぞれのボールを用いてゲームを展開する。 ・前半と後半のゲームの間に，気づきをホワイトボードに記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題意識を持って積極的に取り組むことができているか。 ・2つのボールの違いを確認することができているか。 ・チームで協力して，比較検討が行われているか。 ・4つの比較項目に対して，積極的に取り組むことができているか。
<p><まとめ> 本時のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">まとめる</div>	<p>○本時の振り返り ○各チームの気づきを共有する。 ・ボールの違いから，気づくことがあったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきを共有し，次時につなげる。
<p>備考 ※雨天時は，体育館で行います。</p>		

実践上の留意点

1. 授業説明

本校の中学校1年生のサッカー授業において、足を使ってボールを操作することの難しさや、ゲームにおいてなかなかパスが繋がらない、すぐにカットされてシュートを狙うことができないという課題がある。この課題を解決するために、本単元では「ボール操作」に焦点を当て、サッカーボールよりも一回り小さく、バウンドしにくいフットサルボールを使用することにした。また事前のアンケートで、「ボール操作」以外に「ボールが跳びはねてくるのが怖い。顔に当たりそう」などのボールに対してのネガティブな記述があり、ボールを変更することで技能面以外にも、生徒の学習意欲向上につながると考えた。

本授業では、「フットサルボールとサッカーボールを比較することで、それぞれのボールにどのような特徴があるか考える」ことを目標とした。ボールなどの用具・道具を自分の課題にあったものを選択することで、個人技能の習得や学習意欲向上につながると考えたからである。ボールの特徴の比較は次の4項目、①パス(対人)・②ドリブル・③シュート・④プレーしている時の気持ちで行った。比較した結果は、ボールによって蹴り方を変化させたり、細かいタッチでボールを操作したりするためにはボールが重い方が行いやすく、ボールがバウンドしないので怖くないなどフットサルボールの方が操作しやすいと多くの生徒が記述していた。

今回フットサルボールを使用することにより、サッカーボールよりも生徒が意欲的にボールに関わろうとしている姿や、「ボール操作」についても個人でドリブルを仕掛けたり、パスを出したりするなどの積極的な活動が見られた。

2. 研究協議より

なぜ、「ボール操作」に焦点を当てるためにフットサルボールを使用したのか？

→ボール操作に課題がある中で、事前にサッカーについてアンケートを実施し、その中で、「ボールが怖い。跳ねて顔に当たりそう」などネガティブな意見もあったため、跳ねにくいフットサルボールを使用することでボール操作や学習に対する意欲も向上するのではないかと考えた。

議論の中で、ボールの違いから生徒が何を考え、何ができるようになったのかが明確にわかるようにした方が生徒のさらなる成長につながるのではないかとご助言を頂いた。

中学校1年生にサッカー授業で、何に重点を置いているか？

→ドリブルやシュートなどの個人技能を中心に指導をしている。またゲームを行う際、人数を4対4など少なくしてボールに多く触れる機会を意図的に作っている。